

皆さんがよく知っているF1が短距離走だとすれば、僕が今参戦しているWEC（FIA世界耐久選手権）は長距離走と言えるでしょうね。時間や距離はレースによってさまざまですが、その最高峰にあるのがフランスで開催されるル・マン24時間レースです。2018年、19年と2連覇できたことは、自分のキャリアのなかでも本当にうれしい瞬間でした。

僕は2012年からトヨタチームに所属していますが、実は自分が参戦するまでル・マンのレースを実際に見たことがなかったんです。F1でも世界中のレースを転戦しましたが、本当にル・マンは



ハイブリッド車で タフなレースを戦う

レーシングドライバー 中嶋 一貴氏

Hours of Le Mans



特別です。25万人が集まる規模感や高揚感、現場に行くまで想像がつかなかった。会場はお祭り騒ぎで、セレモニーがすごい。正直、初めて出場したときは浮き足だつてしまつて(笑)。でも、だからこそ、このレースで絶対に勝ちたいという思いも強くなりましたね。

トヨタチームではハイブリッド車でずっと参戦しているのですが、やっぱり最初に乗ったときは衝撃的でした。エンジンにモーターがプラスされているわけですから、とにかく馬力がすごい。加速も鋭い。まあ、じゃじゃ馬ですね。ガソリン車とは全然違うので、それに早く慣れなくてはいいなかったし、自分が乗って改善してほしい部分をどんどんメカニックに伝えることで、いい意味で余計な部分が削ぎ落とされ、洗練されたマシンになっていきました。その結果、TS050 HYBRIDが生まれ、優勝につながったんだと思います。

TS050 HYBRID

トヨタがWECに参戦するために開発したレーシング用ハイブリッド車。エンジンと合わせて最高出力1,000馬力を生み出すモーターに、日本製鉄の高効率電磁鋼板が使われています。レースの現場という極限の条件下で鍛え抜かれた技術が、市販車のさらなる性能向上と未来のクルマづくりに活かされています。

もちろん、楽な道のみではありませんでした。レースって、優勝して表に出るのはドライバーやチームスタッフですが、例えばエンジンの部品だけでも何万点もあるわけです。その素材が良くなければダメだし、製造工程がしっかりしていなければダメだし、組み立てにミスがあつてもダメ。とにかく勝利の裏には数え切れないほどの人たちが関わっていて、みんなが力を合わせないと表彰台に上ることはおろか、完走だつてできない。耐久レースを走っていると、特にそのことを痛感します。僕自身もドライバーとして、みんなの思いを背負つて走っている。だから自分のミスでレースを台無しにはできないんです。

2018-19シーズンは日本人初のWECチャンピオンを獲得することができました。今は2019-20年シーズンの真つ最中で、後半戦が始まっています。強敵たちが立ちはだかるタフなレースが続きますが、今シーズンもル・マンを制したうえで、世界チャンピオンのタイトルを防衛したい。自分がやるべきことをやり切ったと思うように、全力を尽くして精一杯戦っていきます。応援よろしくお願いします。

(談)



WEC 2018-2019

24